

VNET プラスのセットアップ version 4

1. はじめに

この資料は VNET ユーザ登録を終えた人が、VNET プラスを利用できるようになるまでの手順を示しています。VNET ユーザ登録者は、ネットワーク管理者となってクライアント PC やサーバなどの終端通信装置（以後単に通信装置）に VNET ID を付与し、通信グループに分離します。通信装置の利用者（以後エンドユーザ）は VNET プラスをインストールしてログインします。

2. VNET ユーザの作業

以下のサイトにアクセスしてください。

<https://ntm200.com/users/login>

VNET ユーザ登録で取得した VNET ユーザ名とパスワードによりログインしてください。デフォルトで通信グループ定義画面が表示されますが、最初は何も表示されていません。

2.1 通信グループの登録

通信グループの登録タグをクリックしてください。



エンドユーザは 1 つ以上の通信グループに入る必要があります。通信グループ名に制約はないので自由に名前をつけてください。

通信グループ登録

3グループまで登録可能

*通信グループ(半角英数)

用途

通信グループ名に制約はないので自由に名前をつけてください。

用途欄はオプションです。メモ欄としてご利用ください。

登録



「登録」をクリックすると、登録したグループ名がグループ一覧に表示されるので確認してください。

新バージョンでは最初から Group1 という名前の通信グループが定義されています。これをそのまま利用しても結構です。

2.2 VNET ID の登録

次に通信装置の VNET ID を登録します。「VNET ID 登録」をクリックしてください。

The screenshot shows the 'VNET ID 登録' (VNET ID Registration) page. At the top, there are navigation links: '通信グループ登録', 'VNET ID 登録' (circled in red), '通信グループ定義', 'ユーザ編集', and 'ログアウト'. The main heading is 'VNET ID 登録' with a sub-note '5台まで登録可能'. Below this, there are several input fields and checkboxes with red arrows pointing to them and explanatory text:

- *VNET ID:** A text input field containing 'sam01.ntm200.com'. A red arrow points to the 'sam01' part with the text: '通信装置のユニークIDの部分を決定して入力してください。' Another red arrow points to the '.ntm200.com' part with the text: 'VNET IDの後半は、“VNETユーザ名”.ntm200.comで固定です。'
- *パスワード:** A password input field. A red arrow points to it with the text: 'エンドユーザの初期パスワードはVNETユーザ(管理者)が決めてください。' Below the field, there is a note: '※パスワードは初回のみ管理者が決定します。ユーザがパスワードを変更したため管理者からは変更できません。'
- 氏名:** A text input field. A red arrow points to it with the text: '名前と所属はオプションです。'
- 所属:** A text input field. A red arrow points to it with the text: '名前と所属はオプションです。'
- 所属通信グループ:** A section with a checkbox labeled 'group1'. A red arrow points to the checkbox with the text: '登録済みの通信グループが表示されているので、所属する通信グループにチェックを入れてください。後で設定を変更することも可能です。'

At the bottom left, there is a '登録' (Register) button.

ここで決めた VNET ID とパスワードは、該当するエンドユーザに通知する必要があります。

同様に、すべての通信装置の VNET ID を登録してください。

VNET ID は 3 個まで無料で登録できます。

発呼（通信開始）と着呼（通信の待ち受け）の許可設定ができます。サーバは着呼のみのことが多いので、発呼を禁止することによりセキュリティが向上します。また、発呼側にしかならないクライアント PC は、着呼を禁止することによりセキュリティが向上します。デフォルトでは発呼と着呼ともに許可となっています。よくわからない場合はそのまましてください。

2.3 通信グループの定義

最後にこれまでの設定を確認します。「通信グループ定義」をクリックしてください。縦軸に登録済みの VNET ID、横軸に登録済みの通信グループ名が表示されています。VNET ID と通信グループ名の関係が想定通りになっていることを確認してください。

記述内容に誤りがあったら「編集」をクリックして修正してください。ただし、VNET ID は変更できません。もし変更したい場合は、一度削除してから再登録してください。

通信グループが正しく定義されていることを確認してください。同じ通信グループでないとは通信はできません。チェックを入れたりはずしたりすれば変更が可能です。

[通信グループ登録](#)

[VNET ID登録](#)

[通信グループ定義](#)

[ユーザ編集](#)

[ログアウト](#)

通信グループ定義

VNET IDと通信グループを対応付けます

保存する ←

設定内容を確認のうえ「保存する」をクリックしてください。

※保存ボタンをクリックすることで更新されます

VNET ID	氏名	所属	通信グループ名
win1.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="windows"/>	<input type="text" value="vnet"/>	group1 編集 削除
lin.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="linux"/>	<input type="text" value="vnet"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
and.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="android"/>	<input type="text" value="vnet"/>	<input type="checkbox"/>

チェックを入れたりはずしたりすることにより、簡単に通信グループの変更が可能です。複数の通信グループに帰属することも可能です。

確認が終了したらネットワーク管理者の設定作業は終了です。ログアウトして終了してください。

3. エンドユーザの作業

3.1 ダウンロードとインストール

利用する通信装置に VNET プラスをダウンロードしてください。以下のサイトから対応する OS をクリックしてください。ここでは Windows のインストール方法を示します。

<https://ntm200.com/users/download>



Windows のタブをクリックするとすぐに VNETInstaller.msi がダウンロードされます。ダウンロードフォルダにある VNETInstaller.msi を起動すると、VNET プラスのインストールが始まります。指示に従ってインストールを続けてください。VNET プラスのインストールはすぐに終わります。

続けて YogaDNS(*)のインストールが求められます。こちらも指示に従ってインストールを続けてください。インストールが全て終わると VNET プラスのアイコンが生成されます。アプリケーション一覧の中に VNET プラスが表示されますので確認してください。アイコンが見つからない場合は検索欄に VNET と入力してみてください。

途中で vnprojectwindow のアクセス許可を求められたら許可してください。



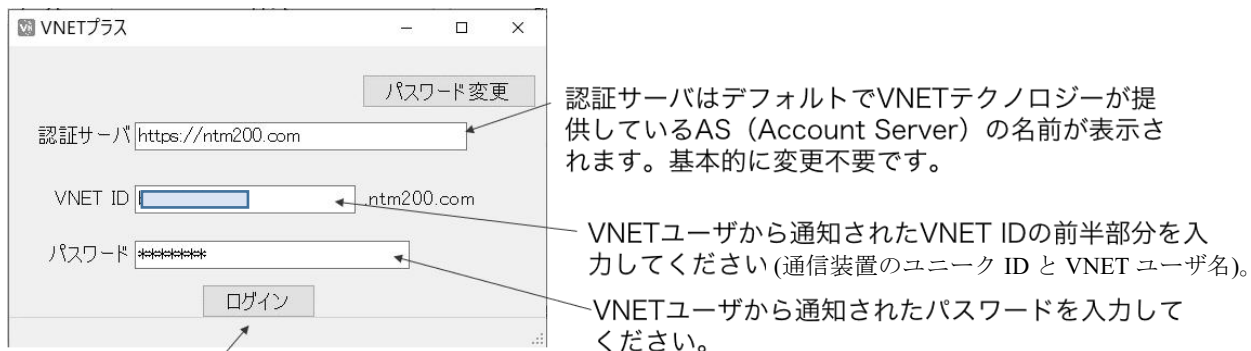
VNET プラスのアイコン

(*) YogaDNS は VNET プラスを実現するための機能の一部として利用しているアプリケーションです。インストールさえできればよいので設定作業は不要です。インストール完了後閉じて大丈夫です。YogaDNS が単独でバージョンアップを要求してくることがありますが不要です。要求された場合は Disable product update check にチェックを入れて No を選択してください。

3.2 VNET プラスのログイン

VNET プラスのアイコンをクリックして立ち上げてください。以下のような入力画面が表示されるので必要な情報を入力してください。

VCRUNTIME が見つからないという表示が出てログインできないことがあります。このときは Visual C++ (64 ビット版 : X64) をインストールすることにより解決します。



ログインを押下して認証に成功すると以下のように画面が遷移します。
この画面が出ればログインに成功し、VNET通信の準備ができたことを示します。
表示が出ない場合は、ネットワークの接続や、入力情報に誤りがないか確認してください。



3.3 パスワードの変更方法

必要に応じてパスワードをエンドユーザだけが知る内容に変更してください。

STOP をクリックして一度 VNET プラスを終了させてください。現状のパスワードを入力して「パスワード変更」をクリックすると、以下の新パスワードを入力する画面に遷移します。

新パスワード

「VNET IDをこのデバイスに紐づける」にチェックを入れると、ご利用中のVNET IDがこのデバイスに限定されセキュリティが向上します。

VNET IDをこのデバイスに紐づける

新パスワードを入力して登録をクリックしてください。パスワード変更の確認ポップアップが出るのでOKを押下してください。新パスワードで再度ログインできることを確認してください。

ここで、「VNET ID をこのデバイスに紐づける」にチェックを入れると、ご利用中の VNET ID がこの通信装置に限定されるようになります。すなわち、通信装置を保持し、かつパスワードを知っている人だけがログインできるようになります。認証条件が増えるのでセキュリティが向上します。ただし、別の通信装置からログインできなくなるので注意してください。

以上で VNET プラスの準備は完了です。

[留意事項]

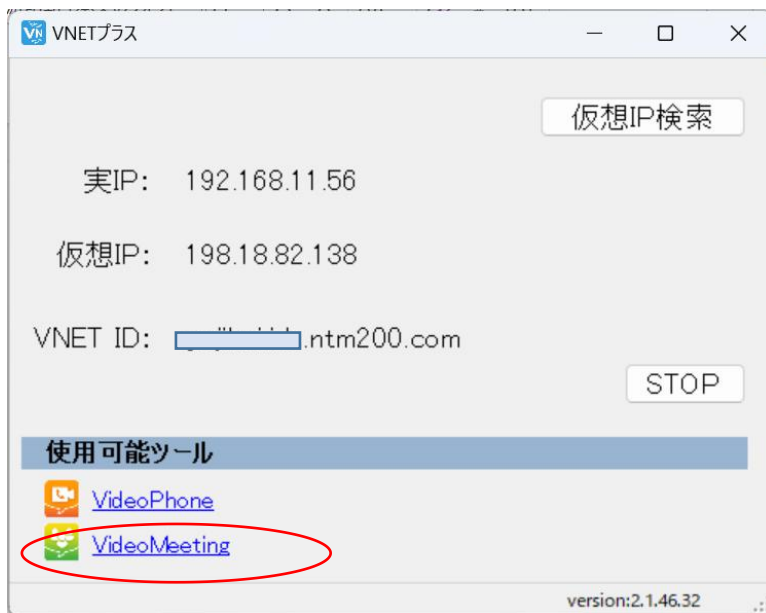
同じ VNET ID のマシンが同時に立ち上がっていると動作の保証ができません。同じ VNET ID を複数のユーザーが使い回すことは避けてください。

4. 動作検証

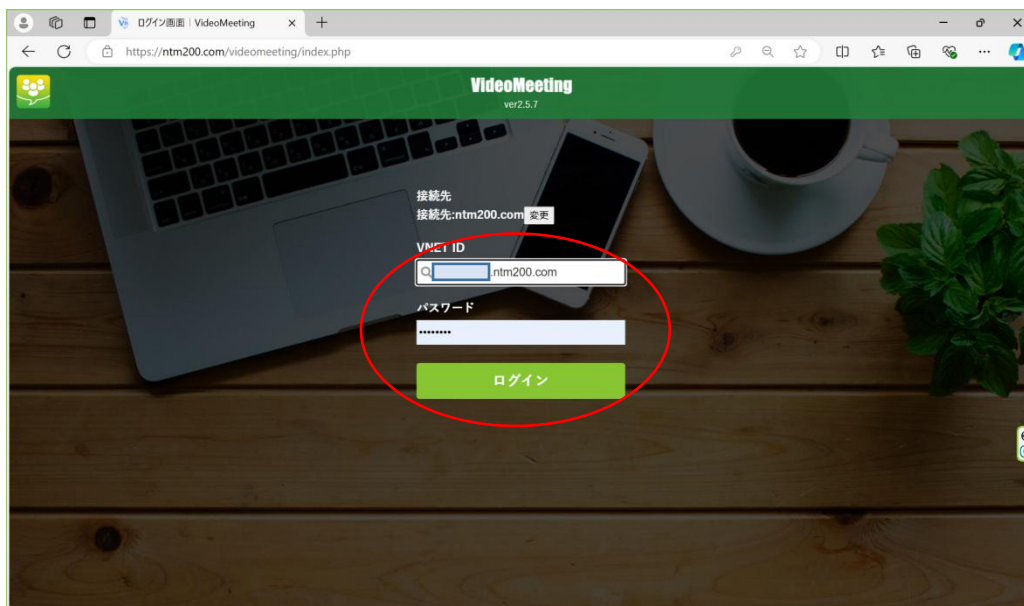
4.1 VideoMeeting

VNET プラスが正常に動くことを確認するため、VideoMeeting (VNET プラス上の独自アプリ) を使います。

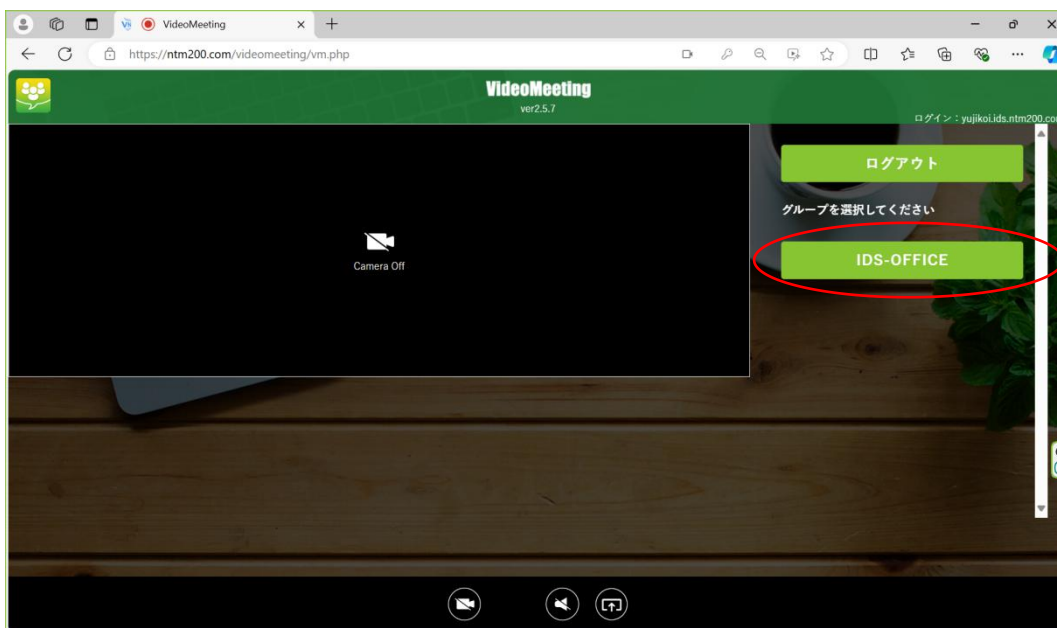
①VNET 起動画面の VideoMeeting をクリックしてください。



② VideoMeeting の画面が立ち上がります。ここで VNET ID とパスワードを再度入力してログインしてください。VideoMeeting は VNET プラスとは独立したアプリなので再ログインが必要です。この作業は最初の 1 回だけです。

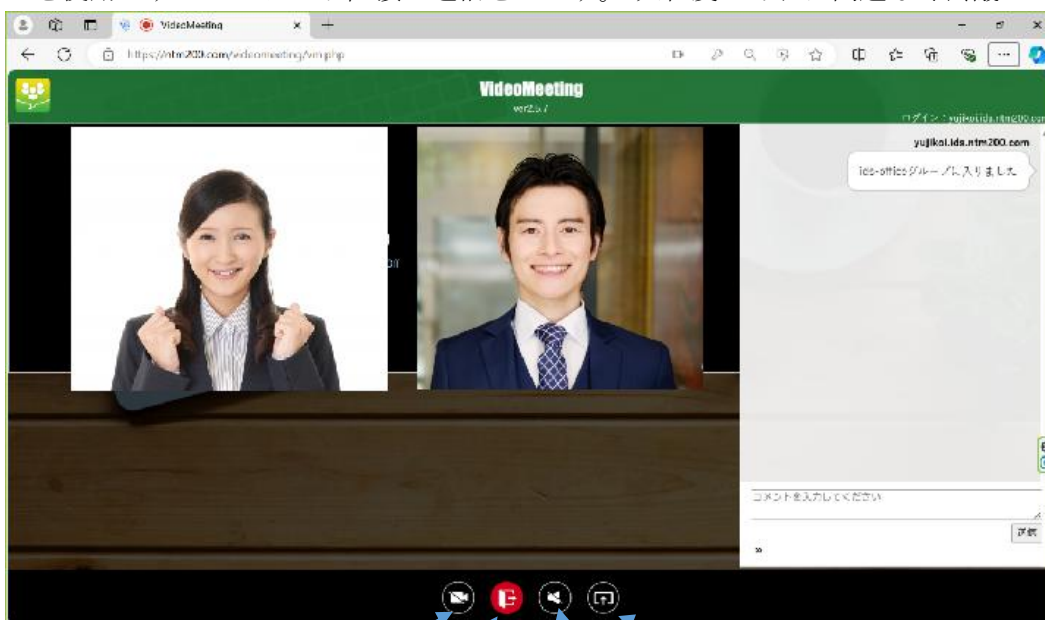


③ 下記画面に遷移して通信グループ名が表示されるのでクリックしてください。



④ 「入室しますか?」とポップアップ表示されるので「OK」をクリックしてください。

⑤ 2人が入室すると下記のように会話ができます。ボタンの説明は以下の通りです。デフォルトでは音声、ビデオともオフなのでマニュアルでオンにしてください。TV 会議用サーバを使用せず VNET により直接の通信をします。4人程度であれば問題なく会議ができます。



映像オン/オフ 退出 音声オン/オフ 画面共有

4.2 その後の確認

VNET プラスで何ができるのか、どのような手順で確認すればよいのかは下記サイトを参考にしてください。このサイトは随時更新しています。

<https://vnet200.com/posts/procedure/>

Windows のファイル共有の経験がある方は、「1. Windows ファイル共有をインターネット経由で実現する」を試してみてください。